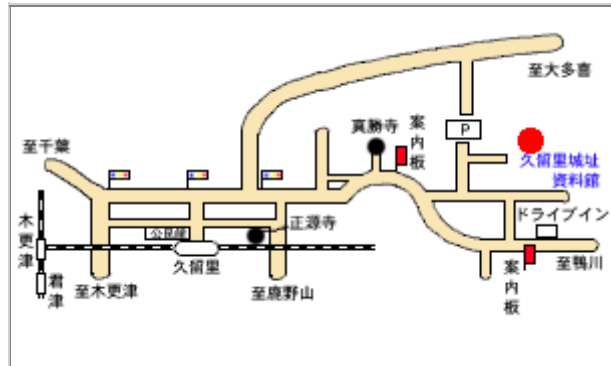


お知らせ

○次回活動日のご案内；3月21日（水・春分の日）君津市久留里字内山TEL0439-27-3478 君津市久留里城址資料館に於いて活動報告会を行います。集合9：50、役員及び報告者は9：30集合。

〔久留里城址資料館交通案内〕

- ◆電車 JR久留里線久留里駅下車徒歩35分
- ◆高速バス 高速バス浜松町バスターミナルー安房鴨川駅線、千葉駅ー安房鴨川駅線上総経済センター前下車徒歩15分
- ◆自動車 自動車 館山自動車道姉崎・袖ヶ浦、木更津北インターから45分
(駐車場 乗用車130台 無料)



○植物班臨時活動日；2月24日（土）9：40第一駐車場集合、2時ごろまでの予定。スハマソウ、コセリバオウレンなど早春の植物調査。安全な履物と服装が必須です。ロープを準備します。参加者は上記事務局に連絡下さい。
○ちば里山センター事例発表会；3月10日10：00～16：00、於千葉市中央区長洲「プラザ菜の花」、当会も「生物多様性保全を目指して」をテーマに体験発表を行います。参加申込者には案内書を添付します。参加の追加申込を2月21日まで受け付けますので上記の事務局アドレス又は電話宛お申込下さい。

活動の記録

2月12日（月）快晴、参加会員17名、森林インストラクター会などの来訪者10名

○森林インストラクター会豊英島下見；3月23日に予定されている市原市民の方の豊英島見学を案内される森林インストラクター及び市津公民館職員の方々の森下見をご案内しました。巨木林やコナラ林など目標林型ごとの森づくりの状況、萌芽更新や実生の生育状況、樹木や林床の植生、鳥の巣や動物のフィールドサイン、食害の様子など熱心の下見が行われました。里山活動を学ぶため豊英島観察会に参加される市原市民の方々の参考になればと期待しています。



大勢の来訪者迎え千年の森は大盛況



穴開け



コマ打ち



ホダ場づくり

○キノコ植菌；快晴の明るい清々しい森のなか、総勢16名の人海作業。2台の発電機に4機の電動ドリルをセットし、1月に玉切りした90センチ長の原木に穿孔、シイタケ、ナメコの菌駒をマメマメしい手つきでコマ打ち。ドリルで穴を開ける人、菌駒を穴に押し込む人、ハンマーで駒打ちする人の呼吸ピッタリで、植菌は順調にすすみ、植菌

済原木をホダ場に運び、本伏せを行った。シイタケは合掌伏せ、ナメコは覆土伏せ。

種類	シイタケ	ナメコ
菌の品種と駒数	森産業製「にく丸」3,000駒	森産業製「森2号」1,000駒
マダケ林脇ホダ場	コナラ 88本、カシ2本、 植菌原木計90本 合掌伏せ	カシ18本の植菌原木 覆土伏せ
巨木林ホダ場	コナラ 63本の植菌原木 合掌伏せ	コナラ32本、サクラ14本 植菌原木計46本 覆土伏せ



シイタケ合掌伏せ



ネットの効果は確かにあり



シイタケは無事でした

○栽培キノコ調査；マダケ林脇ホダ場のシイタケは、1月活動日に張った防獣ネットの効果テキメン、獣害に遭う事無く、沢山収穫出来ました。前回まで収量皆無の広場近くの04年植菌ホダ場のホダ木1本に立派なシイタケが沢山採れました。12月にホダ場を木の枝で日覆したとき、この1本に被覆漏れがあり、他のホダ木とは日当たりや通風の環境が異なっていました。そこで女性陣でこのホダ場（S0401～S0404）に被せてある木の枝を全部取り除きました。次回の豊作を期待したいものです。この日の収量はシイタケ2,58kg、ナメコ90gでした。（久我記）

【豊英島ニュース】マダケ林脇のシイタケ食害犯人探しのため、前回設置したセンサーカメラは1/21-1/31に約700枚撮影し電池切れになっていました。PCで画像を確認しましたがシカ、サル、リスなどは1枚も写っていませんでした。殆ど風による葉の動きでシャッターが切れたようです。ネットが食害に効果を発揮している写真が撮れたら最高だったのですが、それよりもネットで食害を防げた可能性が高いということの方が重要だと思います。広場脇の原木については害菌の侵入は無いようなので今後発生する可能性があると思います。発生が始まったらマダケ林横と同様に食害対策が必要です（福島記）

○カブトムシ寝床づくり；1月に落葉を積み上げたカブトムシの寝床。ビニールシートを剥ぐとじわっと湿り気。少しずつ好ましいゆりかごになっているのかな？今日も落葉をのせて踏みならした。もし幼虫が成長していたら傷ついていい迷惑だったかも？これからはずっと静かに見守るからごめん。（村野記）

【シイタケ・ナメコの仮伏せ省略について若干の議論】仮伏せ省略については、プロの人でも省略している例があり（どれくらいの割合かは知りません）問題ないと思います。ただ、合掌型は本来収穫時にとる形で、一般的な本伏せではあまりとらない形かもしれません（当初はむかで伏せを考えていました）。しかし、前回実施分は成功していますので、問題ないだろうと判断しました。（坂本）
シイタケ、ナメコの植菌後の仮伏せについては、作業中に数人の方から、「必要ないのですかね」、「最初から本伏せでは乾燥しすぎが心配」との声がありました。私には「年間活動の日程との関連もあり仕方がないのでは」と曖昧にお答えするしかなく、反省しています。次の機会には、検討することも必要かもしれません。ただし、今回は坂本さんのご意見のとおりで良かったのではと思います。（新井）

千年の森・2月の活動に参加して

木更津市 山脇未隆

私は千年の森の活動に他の行事との関係でなかなか参加できなくて申し訳なく思っております。数ヶ月ぶりに参加していつもの人たちと出会い、懐かしく「お早うございます」の挨拶の一言で、相手と自分との間に心が触れ合ったように感じました。

朝のミーティングが始まり、17人の会員のみなさんが広場に集まったところで、森林インストラクター及び市原市の公民館の方たち10人が「千年の森」を見学に来られたとのことで、真鍋さんから紹介があり、代表のかたの挨拶

撈がありました。

事前に2月12日の作業は「茸菌の駒打ち」をやるのでハンマーを持参するようにと知らされており、ハンマーを持参したものの経験がないし何をどうすればよいのか想像してもあまり分かりませんでした。

坂本代表が説明され、一本の「ホダ木」の直径が10cmとするならば円周方向に5列、長さ約1mで縦方向に4個合計で20個、直径が変わればそれに応じて列数を変える。

コナラには椎茸、桜と樫の木にはナメコの菌の駒を打つとの説明があり、それぞれが作業現場に向かいました。そうしたら以前に駒打ちされて並べられていたS0501 S0503のホダ木に椎茸が沢山あり、メンバーの人から、歓声が上がり、ネットで覆っていたのがよく、猿か鹿か分からないけど食害にあわずによかったとのことでした。

早速女性たちが収穫にかかり、計測だとか、嬉しそうなざわつきが起こり、一方では新たな駒打ちのための準備がなされ、1日の作業の始まりでした。事前に準備されたホダ木に電気ドリル4台、充電式ドリル1台、計5台で穴あけが始まり、その早いこと、他の人たちは駒の打ち込みやホダ木を立てかける横木の準備とそれぞれが自分で自分の役割を決めて効率よく作業が始まりました。

道具も菌も私にとっては初めて見るものであり、木工用の電気ドリルも先端にストッパーがつけてあり、非常に作業効率が高い道具であり、また、菌の駒は円錐形に整形された駒に椎茸、ナメコの菌が植えつけてあり、納豆を思わせるような白い色をした根張りがあり、ねばねばした粘り気もありました。

駒打ち作業がある程度進んだところで、手分けしてホダ木の本伏せ作業が始まり、そのためホダ木を運びました、直径20cmぐらいになると重量が重たく、私としては何年も前にしか経験をしたことがないような作業で随分重たく感じました。ところが約30kg超もありそうな木を一人で担いで何回も運んでいる兵（つわもの）もおられ、驚きました、なかには重量が約50～60kg位ありそうな木もあり、運ぶのが大変でした。

竹林の近くの椎茸のホダ木の並べが済んだところで昼食となり、今回はインストラクター、市原市の人たちも一緒に賑やかなものでした。採れたての椎茸を女性の方（かた）が焼いてくださり、醤油を掛けて食べたら、おいしいことこの上なし、何人もの人が「オイヒイ、オイヒイ」と言ってアツアツを食べておられました。

昼食後は竹林の近くで樫の木と、コナラの木にナメコ菌の駒打ちです。また、ナメコのホダ木は半分埋めなくてはならないらしく、ある人はその穴掘りをされ、そこへ駒打ちが済んだ木を運び埋めました。

今度は祠山の近くの桜の木にナメコ菌の駒を、次いでコナラの木にナメコを、ナメコ菌の駒が無くなったところで椎茸の駒を打ち作業を進めました。

この時、ウサギがわれわれの作業の応援に来たのか、見物に来たのか茶色に黒い筋が少し混じったウサギが跳ねていました。写真に撮るべくウサギが見えなくなったところへ行ってみましたが、当然、ウサギの姿は見えませんでした。ただ、逃げていった場所は以前鹿が対岸から泳いで豊英島へ上陸した場所でした。獣道は鹿も、ウサギも通るのでしょうか、私にはそうは思えませんがとにかく鹿が上陸した足跡があった所へ消えていきました。

一本のホダ木に約20個の駒を打ち、全部で4000個を打ちましたので、200本の木を作業したことになるのですが、労力は200本植菌作業より、ホダ木がめっぽう重たかったため、運ぶ作業にかえて多く消費したのではないのでしょうか。

茸の収穫が多いことと、翌日に皆さんの腰が痛くならないように念願すると共に、私には久しぶりの心地よく疲労した楽しい1日でした、どうも有難うございました。

キノコ植菌作業を終えて

君津市 新井孝男

キノコ植菌作業について感想をひとこと。作業は極めてスムーズに進み、植菌と言う作業は順調に目的を達成しました。とても素晴らしいチームワークだったと思います。

しかし、ボランティア団体としての作業という点では今後次のような点を検討していただければと思います。①なるべく多くの参加者がいろいろな作業を体験できるように工夫する。②作業になれた人が多くなっているが、結構新人もいるので、最初にもう少し作業の流れを説明いただけると良い（今回で言えば、植菌から伏せまで）。③作業上達者と作業未熟練者をうまく班編制して、未熟練者も楽しみながら技術が習得出来るような配慮をする。今回は、エンジンが2台ありましたので、例えば、訓練班と作業推進班のようにして、訓練班ではゆっくりで良いので指導者の下すべての班員が工程すべてを交代で少しずつ体験するようにする。推進班では本日の作業を予定内に終了できるよう作業を効率的に進める。④作業開始、作業中、作業終了後など、今少し安全と健康のための配慮をする（作業の安全と翌日に疲労を残さない工夫・準備体操、整理体操など）など、作業しながら気がついたことです。準備の段階で提案すべきなのに、終わった後で済みませんが、「初心を忘れず」という言葉に免じてお許し下さい。また、栽培

キノコ班において「栽培キノコの目的、各年時における作業の目標や作業サイクル、当日の作業計画の立案、作業分担」等を協議の上、提案することが今後は必要ではないかと痛感しました。なかなか難しいが・・・。